藤倉麻子『Sunlight Announcements / 日当たりの予告群』開催のご案内

展覧会名：藤倉麻子『Sunlight Announcements / 日当たりの予告群』
会　　期：2024年9月14日（土）–10月20日（日）
オープニングレセプション：9月14日（土）18:00–20:00 *作家が在廊いたします
開廊時間：12:00-19:00（日曜 –17:00）
定 休 日 ：月・火・祝日
会　　場：WAITINGROOM（〒112-0005　東京都文京区水道2-14-2 長島ビル1F）

WAITINGROOM（東京）では、2024年9月14日（土）から10月20日（日）まで、藤倉麻子の当ギャラリーでは初めての個展『Sunlight Announcements / 日当たりの予告群』を開催いたします。藤倉は、都市・郊外を横断的に整備するインフラストラクチャーや、それらに付属する風景の奥行きに注目し、主に3DCGアニメーションの手法を用いて作品制作をおこなっているアーティストです。近年では、埋立地や物流への興味から自主企画した物流型展覧会「手前の崖のバンプール」（2022年、東京湾）や3DCG上で空き家を改修した「Fixing Garden」（大村高広と共同、2022年〜）、青森県を舞台として後背地でのエネルギー生産の問題に取り組んだ「インパクト・トラッカー」（2023年、国際芸術センター青森）など、自身のフィクショナルな想像力と現実の社会構造が交差する点を探っていますが、自身にとって3年ぶりの個展となる本展では、本人の制作活動の根源にあり、一貫して作品に取り込まれてきた「日当たり（Sunlight）」と「予告（Announcements）」をテーマに、新作の映像作品や平面彫刻をインスタレーション空間の中に展開します。

『Sunlight Announcements / 日当たりの予告群』メインビジュアル

作家・藤倉麻子について

1992年 埼玉県生まれ。2016年に東京外国語大学外国語学部南・西アジア課程ペルシア語専攻卒業。2018年に東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。現代の都市に存在する原始的な呪術性を見出すことをテーマに、人工的なテクスチャと触覚性に注目したイメージを強調した3DCGアニメーションや、映像に登場するモチーフを現実世界に持ち込んだインスタレーション作品を主に制作しています。近年の展覧会に、2024年グループ展『日本現代美術私観：高橋龍太郎コレクション』（東京都現代美術館、東京）、2023年グループ展『都市にひそむミエナイモノ展 Invisible in the Neo City』（SusHi Tech Square、東京）、グループ展『MOTアニュアル2023　シナジー、創造と生成のあいだ』（東京都現代美術館、東京）、グループ展『エナジー・イン・ルーラル』（国際芸術センター青森（ACAC）、青森）、2022年グループ展『NMWA日本委員会主催展覧会 - New Worlds』（M5 Gallery、東京）、2021年個展『Paradice for Free』（CALM & PUNK GALLERY、東京）など。2025年に開催される、第19回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展の日本館展示「中立点—生成AIと未来」に、プロジェクトメンバーとして参加することが決定しています。主なパブリックコレクションは、高橋龍太郎コレクションやタグチ・アートコレクションなど。

↓＜次頁＞ 展覧会について（続き）

アーティスト・ステートメント

予告は、日常のふとした瞬間に現れるもので、「日」と、日が照らす「地」、そしてそこに住み着く「生」のあいだにまたがる壁やモニュメントといった構築体（装置）を通して感知されます。例えば、外壁の日当たりとそれがつくる影は、私たちに明日また日が昇ることを確信させますが、同時にこの影は季節の移り変わりとともに少しずつずれていきます。観測者が日々何気なく出会う眺めは、太陽の周期と地球の周期のずれのような、巨大な宇宙像の直観にも接続しているのです。

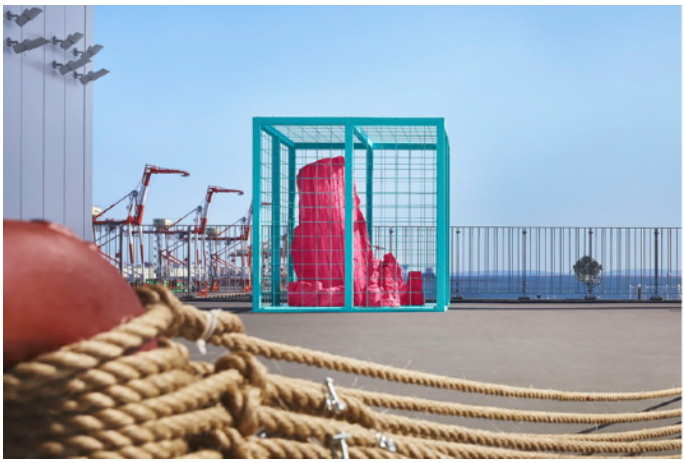
予告を感知したときの「はてしなさ」こそが、私が制作の主題としてきたものです。はてしなさは、壁の裏の影に生える草や郊外のフェンスの網目のひとつ、街灯の足元のアスファルトと縁石の間に落ちている小石など、何気ない風景のなかに潜勢しています。

古代から世界各地では、水平な文字盤の中央に棒を立てたグノモン（Gnomon）をはじめとして、影を落とす装置が制作されてきました（これは南中の時刻を測る日時計であると同時に、太陽の高度を測定するための装置でもありました）。グノモンは、予告を地面にしるしづけ、固定します。「時間」をあらわす局所的な痕跡は、原初的な映像ではないかと私は考えています。

藤倉麻子（2024年8月）

よく見ることで世界とつながる、人間の心の回復と癒し

藤倉麻子は、駅周辺には均一化した住宅地が広がり、その先には延々と田畑が続いていて、その一見素朴な田園風景の中を巨大な高速道路が突き抜けているという、関東近郊・埼玉県の郊外で生まれ育ちました。そのどこまでも続く無機質な風景の広がりの中で、測り知れない大きさや重力を感じる構造物や機械を見ることに興味を覚えた藤倉は、ある時ふとその風景を砂漠のように感じたことがきっかけで、砂漠の中に突如そびえ立つ巨大な建造物や楽園へと自身の興味が広がっていったと言います。その後藤倉は、美術大学ではなく東京外国語大学に進学し、ペルシア語を専攻したという少し異色の経歴を持っています。大学在学中に学んだイスラム神秘主義思想の独特な「奥行き」の捉え方には大きな影響を受け、卒業後は東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻に進み、イスラム神秘主義や広大な風景への興味からくる内的なイメージを、3DCGで立ち上げることから制作をはじめました。
今回のテーマとなっている「日当たり」と「予告」は、藤倉が幼少期に周囲の風景のテクスチャを「凝視する」体験から紡ぎ出したテーマで、現在まで一貫して作品内に取り込まれてきた重要なファクターの一つです。現代社会の過剰な消費活動や、過ぎ去っていく情報やものに対して、自分がいる場所に留まって、建物にうつる影をただ凝視することや塀の表面を見続けることで、何か本質的なルールや動き、色やかたちを見出そうとしてきました。その「凝視作業」の中で、日当たりの中に影を見つけ、その影の長さが変化することによって太陽の高さを感知し、明日が来るという「予告」を見つけることができる。そうやって、日々の生活の中で、周りの景色をよく見ることで世界とつながる方法を見出し、「予告」を感知することでそれが人間の心の回復や癒しになるという作家自身の個人的な経験が、本展作品のベースになっています。本展覧会会場では、様々な「予告」の要素が表現された3つの彫刻作品（うち2つはレリーフ型平面彫刻）を空間内で見つけることができ、その彫刻に含まれたモチーフが大型ディスプレイに投影される新作映像の中に時折登場します。また、日当たりが予告される状況や日当たりの予告それ自体を概念化した模型の数々が、空間内のステージや壁面にインストールされます。藤倉が創造する様々な「日当たり」と「予告」のカタチを体験することによって、近代化以降走ることをやめずにひたすら進化を追い求めてきた人間の、心の回復と癒し、そして「言葉や時間、距離の先にあるコミュニケーション」をもたらす可能性のあるものを、共に模索できる機会となることを楽しみにしております。



《ミッドウェイ石》2021
鉄コンテナ、FRP製擬岩、ボラード、麻縄、サイズ可変
撮影：Akira Arai（Nacása&Partners Inc.）

《ずばぬけた看板の光》2022
シングルチャンネルビデオ、サウンド（フルHD）、8分44秒
ビデオスチル

↓＜次頁＞ 作家略歴

藤倉 麻子

1992　埼玉県生まれ
2016　東京外国語大学言語文化学部ペルシア語専攻 卒業
2018　東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻 修了
現在東京を拠点に活動中

個展 “Paradise for Free” (2021, Calm & Punk Gallery, Tokyo) 会場風景, 撮影：Yutaro Tagawa

個展

2021
「Paradise for Free」CALM & PUNK GALLERY（東京）

2018
「エマージェンシーズ！035 藤倉麻子《群生地放送》」NTTインターコミュニケーション・センター［ICC］（東京）
「はげ山と閑散都市の原始／functional, primitive」art space kimura ASK?P（東京）

グループ展

2025
「第19回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 日本館『中立点—生成AIと未来』」ヴェネチア・ビエンナーレ日本館（ヴェネチア、イタリア）

2024
「タグチアートコレクション×弘前れんが倉庫美術館 - どうやってこの世界に生まれてきたの？」弘前れんが倉庫美術館（青森）
「日本現代美術私観：高橋龍太郎コレクション」東京都現代美術館（東京）
「Art Squiggle Yokohama 2024」山下ふ頭（神奈川）
「RE:FACTORY_2」WALL_alternative（東京）

2023
「アーバン山水β」kudan houes（東京）
「都市にひそむミエナイモノ展 Invisibles in the Neo City」SusHi Tech Square（東京）
「MOTアニュアル2023　シナジー、創造と生成のあいだ」東京都現代美術館（東京）［Unexistence Gallery（原田郁／平田尚也／藤倉麻子／やんツー）として参加］
「新しい嘘」アート／空家 二人（東京）［藤倉麻子＋大村高広として参加］
「Biotope Circles　—生きるものたちの息づかいが聴こえる場所—」シンボルプロムナード公園内　石と光の広場（東京）
「エナジー・イン・ルーラル」[展覧会第二期] 国際芸術センター青森 展示棟ギャラリーA・B（青森）
「SPRING SHOW」WAITINGROOM（東京）
「アーバン山水」kudan house（東京）
「Encounters」寺田倉庫B&Cホール（東京）
「Sapporo Parallel Museum」sitatte sapporo B1F ステップガーデン（札幌）

2022
「NMWA日本委員会主催展覧会『New Worlds』」M5 GALLERY（東京）
「拡散距離 / コンヴァートの作法 / 可変太陽」日本橋三越本店 三越コンテンポラリーギャラリー（東京）
「手前の崖のバンプール」東京湾（東京）

2021
「Encounters in Parallel」ANB Tokyo（東京）
「余の光／ Light of My World」旧銀鈴ビル（京都）
「3331ART FAIR 野外美術展 のけもの」アーツ千代田3331（東京）
「Digital Art Festival Taipei」オンライン
「CULTURE GATE to JAPAN：BACK Tokyo Forth—東京は過去と未来でできている」東京国際クルーズターミナル（東京）
「多層世界の中のもうひとつのミュージアム——ハイパー ICC へようこそ」NTTインターコミュニケーション・センター［ICC］（東京）
「FLUSH—水に流せば—」EUKARYOTE（東京）
「NITO05」アート/空家 二人（東京）
「アーティストによるポスター展」アート/空家 二人（東京）

2020
「土字旁・人字邊 Close to Nature, Next to Humanity」台東美術館（台東、台湾）
「LUMINE meets ART AWARD 2019-2020 The Award Winner’ s Exhibition」ルミネ新宿（東京）

2019
「来るべき世界：科学技術、AI と人間性」青山学院大学（東京）
「PHENOMENON:RGB」ラフォーレミュージアム原宿（東京）

2018
「Artists in FAS 2018 入選アーティストによる成果発表展」藤沢市アートスペース（神奈川）
「第19回グラフィック『1_WALL』展」ガーディアン・ガーデン（東京）
「MEC Award 2018（Media Explorer Challenge Award 2018）入選作品展」SKIPシティビジュアルプラザ 映像ミュージアム（埼玉）
「MEDIA PRACTICE 17-18」BankART Studio NYK（神奈川）
「東京藝術大学ゲーム学科（仮）展」東京藝術大学大学美術館陳列館（東京）

上映

2022　「KAATアトリウム映像プロジェクト vol.21｜藤倉 麻子」 KAAT神奈川芸術劇場（神奈川）
2019　「TOKYO_ANIMA!_2019」国立新美術館（東京）
2018　「ヤング・パースペクティブ 2018 」イメージフォーラム（東京）

アワード＆フェローシップ

2022　令和4年度メディア芸術クリエイター育成支援事業「国内クリエイター創作支援プログラム」（大村高広と協働）
2020　LUMINE meets ART AWARD 2019-2020　グランプリ
2019　第22回文化庁メディア芸術祭　審査委員会推薦作品
2018　ヤング・パースペクティブ2018
　　Artists in FAS 2018 入選
　　第19回グラフィック「1＿WALL」ファイナリスト
　　北九州デジタルクリエーターコンテスト2018 [KDCC2018]　小林茂審査員賞
　　MEC Award 2018（Media Explorer Challenge Award 2018）　ファイナリスト

アーティスト・イン・レジデンス

2023　国際芸術センター青森（青森）
2022　PROJECT ATAMI（静岡）
2021　BnA Alter Museum（京都）
2018　Artists in FAS 2018（神奈川）

展覧会図録

『「アーバン山水」展カタログ』山水東京、2023年12月

パブリックコレクション

高橋龍太郎コレクション、東京
タグチ・アートコレクション、東京

アーティストウェブサイト

https://www.afujikura.com/

アートフェア『アートフェア東京2023』 (2023,東京国際フォーラム) 会場風景
撮影：山中慎太郎（Qsyum!）

※本展に関するお問い合わせは、下記連絡先までお願いいたします。

WAITINGROOM（代表：芦川朋子）
住所：〒112-0005 東京都文京区水道2-14-2 長島ビル 1F
営業時間：水木金土 12-19時・日 12-17時
定休日：月火祝
Tel：03-6304-1877　Eメール：info@waitingroom.jp
Web：http://waitingroom.jp